

## 15 穿刺ミス減少への取り組み (第2報)

～二人組み穿刺を行なって～

南長野クリニック 宮崎優子 金井永子 清水和子 井堀直子  
山崎聖美 宮崎智代 小林千春 町田和布  
同内科 山崎 徹

### 【はじめに】

当院では2004年、第1報として穿刺ミスチェック表を用い、ミス減少への取り組みの効果を報告しその後も表を利用したチェックを続けて来た。このたび医療改定に伴う業務の見直しにより、一人での穿刺・透析開始から二人組んでの穿刺・開始へ移行したところ、ミスの件数に明らかな差が見られたので、その原因を分析し報告する。

### 【方法】

- (1) 2005年12月二人組み穿刺導入、前後8ヶ月間の穿刺ミスの件数を、透析室スタッフ毎に比較する。
- (2) 上記データを元に、スタッフにアンケートを行なう。
- (3) アンケート結果から、二人組み穿刺がスタッフに及ぼした影響を分析する。

注) 当クリニックにおける二人組み穿刺の状況

- ベッド数24を半分に分け、二組のペアでそれぞれ穿刺を受け持つ
- 患者一人につき、穿刺時間5分を目標とする
- 一人で数人穿刺したら途中で介助者と交代する
- 担当患者の穿刺が終了したら、反対側のグループの穿刺を手伝う

### 【結果及び考察】

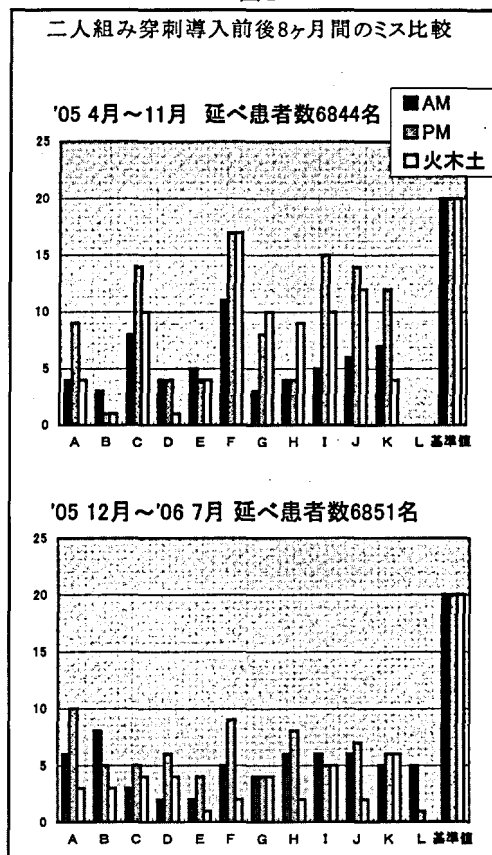
導入前後8ヶ月間のミスの比較では延べ患者数はほぼ同じだが、明らかにミスの件数が減少している。また導入前では、スタッフ毎のミス件数にばらつきが有ったが、導入後はほぼ平均化された。(図1)

次にアンケートの集計結果を示す。

宮崎 優子 医療法人 南長野クリニック

〒381-2217 長野市稲里町中央 4-17-7 (026)291-0170

図1



まず、二人組み穿刺になり、穿刺に対する意識は変わったか?との問いに、73%が変わったと答えた。(図2)

ではどう変わったかの問いには、プレッシャーが増加したとの意見がある反面、『安心感が有る』『穿刺に集中できる』『穿刺のストレスが減った』などの意見が大半を占めた。穿刺に対する苦手意識などが、軽減しているものと思われる。(図3)

図2

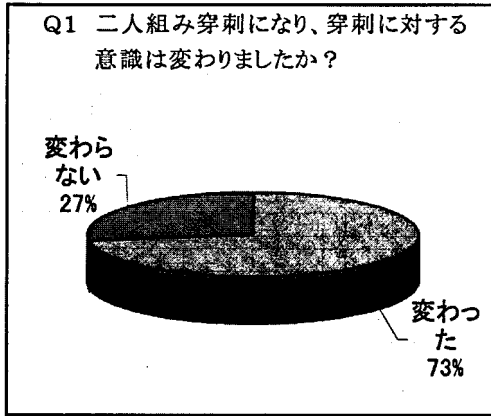


図3

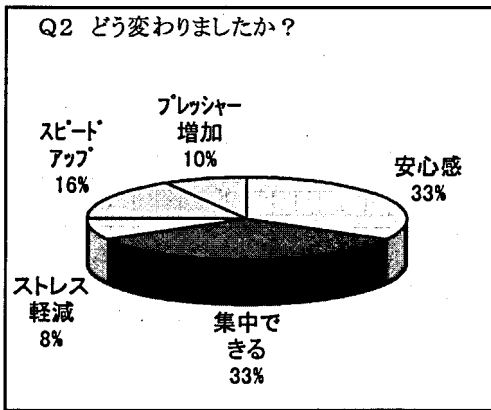
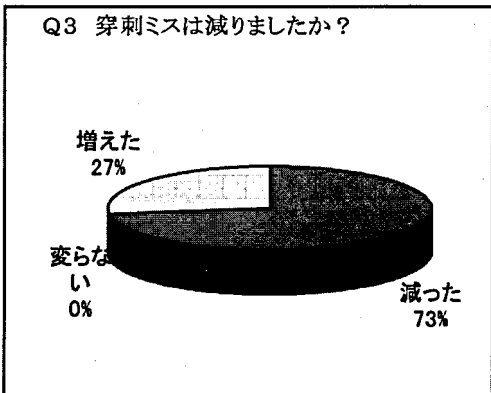


図4



穿刺ミスが減ったか？との問いには、7割のスタッフが減ったと答えているが、反対に増えた者もいた。(図4)

表1

Q4 その原因は何だと思えますか？

- 減った
  - ・ 穿刺に集中できる
  - ・ 穿刺部位で迷っても、すぐに相談できる
  - ・ 穿刺に慣れてきた
  - ・ 会話を介助者に任せる為、患者からのプレッシャーが減った
  - ・ 他者の穿刺を見学し、技術面が向上した
  - ・ 失敗しそうになっても、早目に見てもらえる
  - ・ 無難な場所を穿刺するようになった
  - ・ 穿刺件数が均一になった
- 増えた
  - ・ 苦手な患者の穿刺も避けられなくなった
  - ・ マイペースで穿刺できない
  - ・ 時間制限によるストレス
  - ・ 過緊張
  - ・ 技術不足

表1より、減った原因の多くは『介助者がいる事で穿刺に集中できるようになった』『プレッシャーが減った』などの精神面を挙げた。また『他者の穿刺を見学することにより技術的に向上した』『失敗しそうになっても早めに見てもらえる』など技術面でのサポート体制が挙げられた。反対にミスが増えた原因は、二人組み穿刺により、患者一人にかかる時間に制約ができた為『マイペースで穿刺できなくなった』『過緊張』や『ストレスが増加した』などが挙げられた。

次に一人穿刺・二人組み穿刺、それぞれの利点と欠点を分析してみた。

まず一人穿刺での利点は大半が『マイペース』で『しっかり確認してから刺せる』などの精神面での意見であった。反面欠点は『一人で全て行なう事により不安が増し、ミスにつながった』『感染の危険性が出てくる』『トラブル時の対応が遅くなる』など物理的な問題が挙がってきた。(表2)

表2

Q5 一人穿刺の利点と欠点は？

- 利点
  - ・ マイペースで刺せる
  - ・ 穿刺困難者は、しっかり確認してから刺せる
  - ・ 一斉にスタートする為、患者側に待たされる意識が少ない
  - ・ 穿刺から透析開始までの、一連の流れがわかる
- 欠点
  - ・ 穿刺のみに集中できない
  - ・ 不安・プレッシャーが多い
  - ・ 個々の技術の差で、掛かる時間に格差が出る
  - ・ 一人で行なうことが多岐に渡り集中力が欠けてミスに繋がる
  - ・ 穿刺した人がコンソールを扱う為、感染予防上問題
  - ・ トラブル時の対応が遅れる

表3

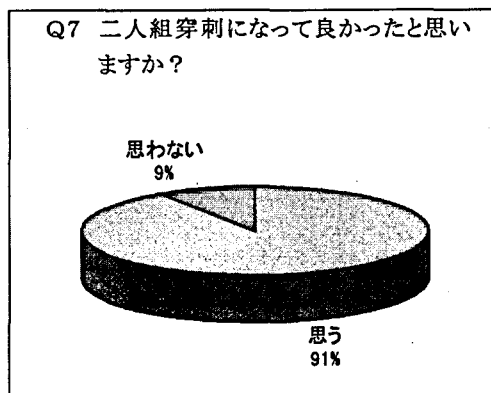
Q6 二人組み穿刺の利点と欠点は？

- 利点
  - ・ 穿刺・介助に集中できる
  - ・ 安心感
  - ・ ベテランと一緒に、苦手な患者にもトライできる
  - ・ 穿刺部位など、アドバイスがもらえる
  - ・ 穿刺技術を見て、学習できる
  - ・ ミスに素早く対応できる
  - ・ 穿刺・機械操作のミスが減った
  - ・ 再穿刺になる前に見てもらえる
  - ・ 穿刺時から見ているので、上手くいかない時、カバーしやすい
  - ・ 介助者にコンソールを任せるので、穿刺時の感染のリスクが減る
- 欠点
  - ・ 自分のペースで刺せない
  - ・ 介助者の視線が、プレッシャーになる
  - ・ 介助者とペースが合わないと、ストレスになる
  - ・ 穿刺ミスによる、ロスタイムが増す
  - ・ 患者側に、待たされる意識が強くなる

二人組み穿刺での利点は、『安心感』や『集中力アップ』『ベテランから技術的・精神的なアドバイスが得られる』などのほかに、ベテランにしても『穿刺時から見ている為、上手くいかない時でもカバーしやすい』との意見が挙げられた。介助する側される側、共に有利に働いていると言える。欠点では、自分のペースで穿刺できない事と、介助者とのペースが合わないなどの意見があった。これは今後二人組み穿刺を続ける中で、徐々に解決される問題だと考える。介助者の視線がプレッシャーになる、との意見は利点との対極に当たるものであった。そばに介助者がいる事で安心な反面見られている為にプレッシャーやストレスを受け、ミスしてしまう事もある。透析経験の浅いスタッフはベテランの穿刺を見て技術的に向上する事が望ましいし、ベテランは後輩の手本となるよう、更に技術を磨いていきたいものである。(表3)

最後に、二人組み穿刺になって良かったか？との問いに、ほとんどのスタッフがイエスと答えた。(図5)二人組んで行なう事が浸透し、スタッフに良い影響を与えている結果だと思われた。

図5



二人組み穿刺が推奨されているが、その理由は明確では無く、限られたスタッフの中で、当院は一人穿刺を続けてきた。今回この研究をまとめ

る事により、二人組んでの透析開始業務がミスの減少、並びにスタッフのストレス軽減に有益である事がわかった。

#### 【まとめ】

- ・ 穿刺に当たるスタッフには多くのプレッシャーや、ストレスが掛かっている。
- ・ 二人組み穿刺をする事で、スタッフのストレスが軽減できる。
- ・ 穿刺者と介助者を分ける事で、感染のリスクが減らせる。
- ・ 二人組み穿刺は、穿刺ミスの減少に優位に働く。

#### 【参考文献】

- 1) 鈴木貴子:血液透析療法における穿刺技術向上に向けての一考察 日本腎不全看護学会誌  
Vol.4
- 2) 久永修一:血液浄化療法の事故と対策 血液浄化療法ハンドブック 2004